主体的に学び合う力の育成

~複式・少人数における問題解決の力を育成する授業実践を通して~

(3年計画の2年次)

校長 堤 司

1 研究主題について

本校では、教育目標である「いきいき学びあう子」「なかよくふれあう子」「ほん気できたえあう子」の具現化のために、昨年度から「主体的に学び合う力の育成」を研究主題とし、解決の見通しをもたせるための課題提示の工夫と ICT の活用について研究を進めてきた。その結果、児童は前時との違いに気付いたり、自ら予想をもったりし、自力解決の意欲を高めることができた。

しかし、本校は複式・少人数であるため、多様な考えを出し合ったり触れたりすることが難 しい。そのため、他者とかかわり合ったり、伝え合ったりしながら問題解決していこうとする 力や進んで表現しようとする主体的な態度はまだ十分とは言えない。また、個人差が大きいた め、「やってみたい」「できそうだ」という、問題解決への意欲を持続させる手立てを工夫する 必要があることも課題として挙げられた。

そこで、今年度は問題解決への意欲と見通しをもたせるとともに、それが持続したり深まったりする教師の手立てについて研究を進めていくことで、「主体的に学び合う力の育成」を目指していきたいと考えた。なお、昨年度の研究の成果を生かし、ICTを活用した授業を通して研究を進めていく。

2 研究のねらい

自分の考えをもち、進んで問題解決するための効果的な指導の在り方を、授業実践を通して明らかにする。

3 研究仮説

問題解決に向かう意欲と見通しが持続する手立てを工夫することにより、主体的に学び合う力を育てることができる。

4 研究内容

- (1) 問題解決への意欲と見通しをもち、主体的に取り組むための工夫
 - ア 自分の考えをもち、伝える場の工夫
 - イ ICT の効果的な活用

5 研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

| 月 | 日 | 学年・授業者・題材名 |
|-----|-----|--------------------------------|
| 6 | 1 5 | 第1回授業研究(4・5学年) 授業者 教諭 高島 庸 |
| | | 社会 4年「ダムの働き」 5年「あたたかい気候にあった農業」 |
| 6 | 2 9 | 第2回授業研究(6学年) 授業者 教諭 中川 健郎 |
| | | 国語 6年「私たちにできること」 |
| 9 | 2 1 | 第3回授業研究(1学年) 授業者 教諭 山田 訓子 |
| | | 生活 1年「きれいにさいてね たねをとろう」 |
| 9 | 3 0 | 八戸市教育委員会教育指導課・総合教育センター訪問 |
| 1 0 | 1 9 | 第4回授業研究(2・3学年) 授業者 教諭 木村頼子 |
| | | 算数 2年「かけられる数とかける数」 3年「もようづくり」 |

(2) 一般研修

| 月 | 日 | 内容 ・ 講師・概要等 |
|-----|-----|--|
| 4 | 2 8 | タブレットに関する研修 |
| | | 講師 本校教諭 中川 健郎 |
| 5 | 2 5 | 「図画工作に関する研修」 |
| | | 講師 本校校長 堤 司 |
| 1 2 | 7 | 特別支援教育について |
| | | 「特別な支援を要する児童の対応の仕方~つなぐ支援 Quality Of Life~」 |
| | | 講師 青森県立八戸盲学校 教諭 三浦 亜紀先生 |
| 2 | 8 | 県学習状況調査結果の考察 |
| | | 本校教諭 中川 健郎 |

6 研究の成果

- (1) 問題提示の工夫や内容の焦点化など、自分の考えをもつ手立てをそれぞれの児童に応じて講じることで、課題解決の意欲や見通しにつなげ、一人一人に自分の考えをもたせることができた。
- (2) ICTを活用することで、調べた情報を並び替えながら整理したり、自分たちで互いの考えを比較しながらまとめたりすることができる場面が増えた。

7 研究の課題

- (1) 自分の考えを伝え合うだけでなく、互いの考えを比較したり統合したりしながら考えを深め合うためには、話し合いたくなるような必要感や切実感のある問題提示の工夫、めあての焦点化を図る必要がある。
- (2) 教科や活動内容によっては、ICTを使わない方が効果的な場面もあった。今後は、ICTを活用するよさを生かせる活用場面を考えていきたい。

(記入者 高島 庸)